

## 文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	群馬県渋川市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	上三原田の歌舞伎舞台を活かした地域文化遺産活性化事業 上三原田の歌舞伎舞台創建200年祭実施事業	【計画の改善時期】 平成 年度	
4 実施計画期間	平成 31 年度 ～ 令和 2 年度		
5 実施計画の概要			
<p>渋川市には国指定 8 件、国登録 4 件、群馬県指定40件、市指定127件の計179件の指定文化財が所在しています。この中には、獅子舞、神楽、祭囃子など16件の市重要無形民俗文化財や、国重要有形民俗文化財「上三原田の歌舞伎舞台」、県重要有形民俗文化財「津久田の人形舞台附人形」、県重要無形民俗文化財「上南室の太々御神楽」が含まれ、さらに、指定はされていませんが、地芝居継承団体 4 座（3 座は農村歌舞伎継承団体、1 座は子ども歌舞伎）が活動するなど、伝統文化や民俗芸能が数多く残っています。</p> <p>国指定重要有形民俗文化財「上三原田の歌舞伎舞台」は、文政 2 年（1819）、地元出身の大工永井長治郎により建造され、明治15年に現在地に移築された歴史的建造物で、平成31年に建造から200年を迎えることとなります。この舞台には、ガンドウ返し・回転舞台・二重セリ・遠見機構といった舞台演出機構が備えられ、その特殊性・特異性から、全国に18カ所ある国指定の農村歌舞伎舞台の中で最も早く昭和35年に指定を受け、農村舞台研究の発端になったという民俗研究史上で重要な位置を占める遺構でもあります。この舞台機構の操作や舞台観客席の設営は、昭和36年に記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財（選択無形民俗文化財）に指定されています。現在機構操作や観客席設営を継承する「上三原田歌舞伎舞台操作伝承委員会」が平成 7 年に地区住民により組織されて以降、ほぼ毎年、この舞台を活用した歌舞伎公演を行っており、特に平成13年の国民文化祭、平成19年の全国地芝居サミット in ぐんま・渋川、平成27年の地芝居 in 渋川では観客席を設営した公演を開催し、全国から多くの観客を集めました。</p> <p>本実施計画は、平成31年に開催を計画する「上三原田の歌舞伎舞台創建200年祭」において、歌舞伎舞台機構操作技術や観客席設営技術の継承、さらに、伝統芸能・地芝居の継承を図ろうとするものです。具体的には、観客席設営技術を駆使し東西25.2m・南北17.5mに及ぶ壮大な芝居小屋を設営し、市内地芝居団体の歌舞伎公演や地域に残る人形芝居などの伝統芸能を、舞台機構を活用しながら披露します。また、永く口伝により伝えられてきた観客席設営技術、例えば本地域特有の養蚕カゴを使用しての囲いや仕切り及び杉葉・萩枝を使った飾り付け、さらに、使用場所や位置によって変える種々の縄の結び方等の技術を途切れることのないよう記録する「歌舞伎舞台・小屋掛け・観客席設営技術の記録」とした映像と、「ドキュメンタリー上三原田の歌舞伎舞台200年」の制作を計画しました。この映像については、映像制作の過程を市 SNS を活用して公開し舞台への関心を高める一助とする他、200年祭以降については、編集した映像を各地域の公民館等公共施設、あるいは一般からの要望にも応えるよう考慮しながら、講演会や説明会と併せて上映するなど、広く活用を図っていきます。</p> <p>一方、建造から200年を経ていることで、建築部材の劣化や腐朽から保護する方策を常に検討する必要が生じています。平成25年度に有識者、地元住民、歌舞伎舞台操作伝承委員会、行政が一体となった「上三原田の歌舞伎舞台修復検討会議」を組織し、平成26年度の奈落石垣修復工事、28年度の排水溝改修工事、30年度のガンドウ改修工事等を実施しました。平成31年度以降は「修復検討会議」を「保存活用計画策定委員会」に再構成し、建築的価値を損なわない修復方法の検討や保存状況調査、さらに民俗学的調査等を行いながら保存管理計画の策定にあたりとともに、記録映像を活用した活用計画の策定を進めます。</p> <p>また、渋川市には榛名山の噴火に被災した古墳時代遺跡が多く存在し、当時の生の情報がそのまま残る希少な遺跡として、県内外だけでなく国外からも注目されています。歌舞伎舞台の北 1 km 程にある国指定史跡「瀧沢石器時代遺跡」では、現在整備に向けた基本計画の策定が進められています。このような歴史文化遺産と、全国的な知名度を有する伊香保温泉を核とした観光、地域特性を活かした農業等各種産業に「上三原田の歌舞伎舞台」での公演や映像上映機会の提供等を結び付け、さらなる交流人口の増加を図るとともに、新たな渋川ブランドの創出を目指します。</p>			

## 文化遺産総合活用推進事業 実施計画

6 実施体制			
<p>本実施計画に係る全体の企画・調整や指導等は以下の担当課が行います。</p> <p>教育部文化財保護課：補助事業における文化財の取扱等に関する指導・調整等            教育部生涯学習課：地芝居団体指導・支援等            産業観光部観光課：観光業務に関する連携等</p> <p>補助事業は次の団体が実施します。補助事業に係る書類・成果物等は実行委員会事務局が管理し、補助事業終了後は渋川市に継承します。</p> <p>上三原田の歌舞伎舞台創建200年祭実行委員会（委員長：渋川市長）            構成団体：上三原田歌舞伎舞台操作伝承委員会、渋川市上三原田自治会、渋川市文化協会、渋川市文化財調査委員会、有識者、渋川市、渋川市教育委員会</p> <p>各年度の事業終了後に、有識者、歌舞伎舞台操作伝承委員会、渋川市教育委員会で構成される「上三原田歌舞伎舞台保存活用計画策定委員会」へ実施報告し、評価を協議した上で、この結果を「渋川市文化財調査委員会」に報告し評価を得ることとします。各年度の事業評価は、毎年実施する舞台操作点検・機構操作訓練及び歌舞伎公演の実施や情報発信の方法に反映させ、舞台価値の再確認及び活用方策の検討にあたります。</p>			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成30年度交付決定額： 4,768 千円	平成31年度申請額： 9,631 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
<p>地域で継承してきた文化財への誇りや保存継承への意識向上と、歌舞伎等の伝統芸能や歌舞伎舞台操作の次世代への継承が期待できます。「歌舞伎舞台・小屋掛け・観客席設営の記録」及び「ドキュメンタリー上三原田の歌舞伎舞台200年」を制作し活用することにより、地域住民の高齢化に伴う技術の消失の懸念の払拭が図られ、さらに、積極的に映像公開・講演会開催等のカリキュラムを設けることで、市民への文化財保護意識や伝統文化に対する意識の高揚を目指します。</p> <p>歴史文化遺産や伝統文化に対する取組みを広く周知し、観光・産業等と多面的に結び付けた周遊ルート等を提供することで、文化の薫り高いまちづくりを目指すことができます。これによって、平成28年度に観光客数480万人・宿泊者数116万人であった数値を、令和4年度に観光客数529万人・宿泊者数155万人へと増加設定した目標（「第2次渋川市観光基本計画」）に寄与することができるとともに、定住人口の増加が望めます。</p>			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：	<p>自主財源確保のため、平成30年10月から、渋川市ふるさと応援寄附金事業の用途に「上三原田の歌舞伎舞台創建200年祭関連事業」を設定し、市ホームページやチラシ等により周知を図り、協力を募っています。この応援寄附金は、期限を定めず、200年祭以降についても継続し、上三原田の歌舞伎舞台の活用のため使用します。</p>		
事業概要：	<p>平成30年度・31年度の2カ年継続事業に対し、群馬県では「魅せる群馬の文化応援事業補助金」を交付しています。創建200年祭の開催を周知するため、市では30年度に補助金の交付を受けイベントを実施しました。</p> <p>平成30年11月4日開催の「上三原田の歌舞伎舞台映像上映@浅草」では、台東区浅草公会堂にて、映画監督野田香里氏（群馬県文化財保護審議委員）制作の映像（上三原田の歌舞伎舞台や、同氏が小中学校で歌舞伎を取り入れた授業を実施した際の映像を編集したもの）を上映しトークとともに披露しました。平成30年11月24日には「上三原田の歌舞伎舞台2018前夜祭」として、上三原田歌舞伎舞台操作伝承委員会が、普段公開しない舞台機構の点検及び操作訓練といった裏側を公開し、併せて、野田香里氏による映像上映とトークを舞台上で行いました。</p> <p>これらのイベント記事が新聞等に掲載されたこともあり、11月25日に開催した「上三原田の歌舞伎舞台2018」では550人の観客が集まり、多くの取材やテレビ放映もあり、平成31年度の「上三原田の歌舞伎舞台創建200年祭」への情報発信が図られました。</p> <p>平成31年度についても補助金の交付を受け、200年祭での活用を計画しています。</p>		

## 文化遺産総合活用推進事業 実施計画

事業概要：	<p>獅子舞・神楽・祭囃子等の無形民俗文化財継承団体に対して、後継者育成、組織や活動の強化のため、市では補助金を交付し支援しています。</p> <p>また、県指定重要有形民俗文化財「津久田の人形舞台附人形」の人形芝居を伝承する津久田人形操作伝承委員会桜座の「ぐんま人形芝居連絡協議会」での活動や、地元小学校・中学校で毎年実施するワークショップ・人形芝居公演を支援しています。平成30年12月4日に中学校、12月20日に小学校でワークショップ・人形芝居公演を開催し、12月8日には群馬県生涯学習センターにて「字幕付き人形芝居公演」に出演しました。このように、小中学校でのワークショップに加え、外国人が見学に訪れる公演に参加したことで、例年以上に人形芝居の伝統を広く発信する機会を得たことになりました。「上三原田の歌舞伎舞台創建200年祭」においても、地元の伝統文化継承団体の代表として公演に参加します。</p>
事業概要：	<p>教育部生涯学習課では、市内で活動する半田歌舞伎坂東座、渋川歌舞伎、赤城古典芸能保存会の地芝居継承団体3座と、渋川子ども歌舞伎の活動を支援し、毎年、市民総合文化祭で演技発表の場を設けています。平成30年は11月18日に歌舞伎公演を開催しました。</p> <p>渋川子ども歌舞伎は、平成18年の「群馬県子ども歌舞伎教室」に参加した子どもたちが、渋川に古くから伝わる農村歌舞伎の伝統を後世に伝えようと結成された団体で、初期の頃参加していた子どもの中には、現在中央の歌舞伎に入り活動する子も輩出しました。地元に残る地芝居（農村歌舞伎）を通して伝統文化・伝統芸能を大切に保護する気持ちや、自己肯定意識を持てる環境作りを継続して行っています。</p>
11 「文化財保存活用地域計画」の作成・認定や「文化財保存活用大綱」の策定、「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等	
<p>歴史文化基本構想については、指定等文化財を多方面から検証し検討を進める必要があると考えられますので、順位を定め、着実に進行管理していく方針です。現在は、国指定史跡「瀧沢石器時代遺跡」の整備に向け、平成29年度に「史跡瀧沢石器時代遺跡保存活用計画」を、平成30年度に「保存整備基本計画」の策定を行い、平成31年度は「史跡整備基本設計」の作成にあたります。また、本市の最大の特徴である古墳時代の榛名山噴火被災遺跡について、「榛名山噴火関連遺跡等活用庁内検討委員会」及び「榛名山噴火関連遺跡等活用に関する有識者会議」において、活用に向けた検討を進めています。</p>	
12 担当部局	
地方公共団体 担当部局課	渋川市教育委員会 教育部 文化財保護課

## 7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分1:	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分1:	その他 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標1:	交流人口の増加	関連事業:		①		
目標値1:	【現状値】平成28年度 480万人 ⇒ 【目標値】令和2年度 512万人					
設定根拠1:	伊香保温泉を核に、地域資源のブランド化や交通交流の促進、インバウンドの拡大など、地域の特色をいかした取組を展開し、誰もが訪れたい魅力ある観光地づくりを推進する。 令和2年度までの目標設定にあたり、第2次渋川市観光基本計画では、平成28年度の480万人を、県との連携や広域周遊の促進等を見込み、令和4年度に529万人としているため、令和2年度までの目標値は、512万人とした。					
進捗状況1:	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成31年度	令和2年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度
504万人	512万人	万人	万人	万人	万人	万人
75%	100%					
目標区分2:	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分2:	地域の文化遺産関係資料館、博物館等の年間入館者数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標2:	文化財関連施設入館者数(赤城歴史資料館・北橋歴史資料館・ハワイ王国公使別邸・市埋蔵文化財センター)	関連事業:		①		
目標値2:	【現状値】平成30年度 34,000人 ⇒ 【目標値】令和2年度 36,000人					
設定根拠2:	教育部文化財保護課に併設された市埋蔵文化財センターでは、市内に所在する主要な古墳時代遺跡の出土品等を展示し、また、市内の文化財保護の拠点となっていることから、歴史文化遺産の周遊を案内することができる。赤城歴史資料館は上三原田の歌舞伎舞台と2km程の所にあり、歌舞伎舞台の模型や昭和36年の公演時に撮影された写真資料、国指定史跡「瀧沢石器時代遺跡」の資料等を展示している。ハワイ王国公使別邸は伊香保温泉石段の脇にあり、年間を通して入館者が多い。このようなことから、上三原田の歌舞伎舞台の情報発信を図るため、文化財関連施設で資料展示を実施するとともに、各施設においても魅力ある展示を目指し、周遊ルートの設定・案内等を行いながら入館者数の増加を図る。 毎年20%・1000人の増加を見込んで設定。					
進捗状況2:	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成31年度	令和2年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度
35,000人	36,000人	人	人	人	人	人
50%	100%					
目標区分3:	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分3:	地域の文化遺産への来場者数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標3:	上三原田の歌舞伎舞台で開催する公演への入込客数	関連事業:		①		
目標値3:	【現状値】平成27年度 2,800人 ⇒ 【目標値】令和2年度 600人					
設定根拠3:	平成27年度に「地芝居in渋川」として、観客席に小屋掛け(最大規模の約半分)を行い、1日限りの地芝居公演を開催し、来場者2,800人が訪れた。平成29年度・30年度は、上三原田歌舞伎舞台操作伝承委員会による舞台操作披露及び地元三原田小学校歌舞伎クラブによる歌舞伎公演を開催した。来場者数は平成29年度が350人、平成30年度が500人である。 平成31年度数値は、最大規模の小屋掛け・観客席設営を行い2日間の公演を開催する計画であり、平成27年度の2倍の来場者を見込んだ。また、令和2年度は、平成29年度・30年度と同様の内容での開催を見込んだ数値となっている。					
進捗状況3:	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成31年度	令和2年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度
5,600人	500人	人	人	人	人	人
-127%	105%					

## 8 (2) 実施事業の概要 別紙

事業①：	上三原田の歌舞伎舞台を活かした地域文化遺産 活性化事業 上三原田の歌舞伎舞台創建200年 祭実施事業		実施団体：	上三原田の歌舞伎舞台創建200年祭実行 委員会		
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 31 年度 ~ 令和 2 年度		
事業概要：	平成31年に建造から200年を迎える国指定重要有形民俗文化財「上三原田の歌舞伎舞台」において、「上三原田の歌舞伎舞台創建200年祭」と題した歌舞伎公演を開催し、地域振興・観光振興を図るとともに、歌舞伎舞台操作技術・観客席設営技術の伝承、地芝居・伝統芸能の継承を図るもの。					
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	上三原田の歌舞伎舞台創建200年祭への入込客数					
目標値：	【現状値】 平成 27 年度 2,800 人 ⇒ 【目標値】 平成 31 年度 5,600 人					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 31 年度	令和 2 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度
5,600 人	500 人	人	人	人	人	人
100%	-82%					